





この島に高く険しい山など無く、
 営為として村々に住み暮らす人の舞台を、優しく見守る背景のように、その山並はあり続けてきた。

そんな、故郷の連なりの中にこの家もありたいと願った。

この家を訪れる人は、斜に屋根を見上げて、その緩さと薄さに気が付くだろう。建築や土木などの人為が、地形や風景を遮るために使われる世界。

そうではなくて、建築は透けるように、つくり、地域固有の素材を纏わせる。

土を掘り、建築する行為の秘の意味も込めて、掘った土を庭に築山にして、元の地形に戻す。顔を覗かせた玉石は、創意と工夫で庭を彩る一部に変わる。

そこへ、自在の在来種の苗木や樹々を植える。少なくとも硬い舗装で蓋をするのではなく、土を見せるに留めることで、緑が戻ってくる。

裏山の種々が、町に踊り出す。かつての里山集落のように、人の営みが、地形や風景の一部になるような、風土と暮らす木の家になるようにつくった。

淡路島の平屋

瓦の島にあって、羽衣を伏せるように、おらかな風土を表現しようと思った。

夫は、小さな川沿いに敷地を求めた。猪鼻川の向こうには、緑に覆われた堤み。少し離れて民家が点在する。その向こうの山の麓には、妻が生まれ育った集落がある。

